



珍しいかめ棺群を発掘

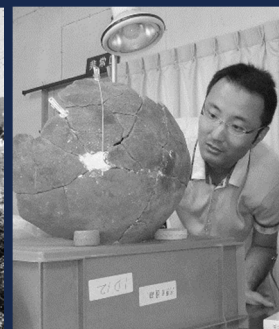
宝飯郡御津町の河原田遺跡

弥生前期の貴重な資料

宝飯郡御津町の河原田遺跡で、弥生前期の貴重な資料として、かめ棺群が発掘された。かめ棺とは、かまぼこ型のかまぼこを二つ折りにして、その内側に土を塗り、外側に土を盛りつけたものである。このかめ棺は、弥生前期の代表的な葬具であり、その発掘は、弥生前期の葬儀の様子や、当時の生活様式を知る上で重要な資料となる。今回の発掘では、かめ棺のほか、土器、石器、銅器などの遺物も出土した。これらの遺物は、現在、愛知大学総合郷土研究所に保管されている。



オスTClツボ出土状態



愛知大学総合郷土研究所主催

2016年度 第1回 公開講演会

河原田遺跡発掘50年

後援：三河地域史研究会

日時：2016年5月28日（土）

14時～15時

場所：愛知大学豊橋校舎

本館5階 第3・4会議室

講演会終了後、展示解説を行います。

15時15分～15時30分

大学記念館 展示室

講師 ^{くわはら} 栗原将人氏（総合郷土研究所研究員）

1965年、愛知大学は弥生時代の遺跡「河原田遺跡」を発掘調査しました。近年その出土遺物の整理作業が進み、同遺跡の様相が徐々に明らかになってきました。これまでの作業の成果を報告し、東三河の初期弥生文化成立の様子を探ってみたいと思います。

予約不要・入場無料

問合先

愛知大学
総合郷土研究所

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1
TEL (0532) 47-4160 FAX (0532) 47-4190
kyodoken@ml.aichi-u.ac.jp
豊橋鉄道渥美線「愛知大学前」駅下車

